



小野川不動滝



2017年11月2日 晴れ

小野川不動滝・小野川湖畔探勝路

小野川不動滝のすぐそばには、不動明王が祀られています。なぜここに不動明王が祀られているのでしょうか？

不動明王とは、五大明王の主尊で、大日如来の命を受けて魔軍を撃退し、煩惱を断ち切り、諸願を成就させ、密教の修験者を守護し、修行を成就させる仏さまです。また、仏教の仏さまのなかでも、観音さまや地藏さまとともに、「お不動さん」の呼び名で親しまれるほど人気の高い仏さまです。

奈良時代には、山岳にこもって修行をし、修験道の祖と称される役行者のような人物も現れてきました。平安時代になると、密教の修験者たちは競って山岳で修行しました。彼らは山に伏して修行するところから山伏とも呼ばれました。修験道の基本的な考え方は、修行する山岳の中心に不動明王が住む聖地があり、その霊力を体得しようとするところにあります。もともと不動という言葉は動かない大山をさすので、不動明王は山の守護神として修験者の本尊にふさわしい存在なのです。



▲滝つぼ付近からの小野川不動滝

小野川不動滝では、山岳信仰が盛んだった昔、不動明王が住む聖地として、多くの修験者が修行の場所としたことが名前の由来になり、不動明王が祀られたのでしょうか。落差約25m、水量は一日6トンもありますが、滝つぼのすぐ近くまで行くことができます。春は新緑、夏は涼しく爽やかで、秋は紅葉とのコントラストが美しく、冬はスノーシューを履いて、真っ白い雪のなかの滝を鑑賞することができます。季節によっていろいろな表情をみせてくれますので、何度も訪れたいくなる滝ではないでしょうか。



ようこそビジターセンターへ

「裏磐梯の噴火前と後の立体地形図」をみよう！

ビジターセンター展示室の中央に、磐梯山周辺の明治の噴火前と後の立体地形図があります。噴火前後の地形の変化がわかり、現在の植物・動物分布等のベースにもなる資料です。

これによると、現在の五色沼湖沼群の位置は、噴火前の旧桧原川の谷（右下図の青線部）にほぼ一致しています。噴火前に低地だったところが今も低地のまま湖沼群となっているのです。これは、南にそびえていた小磐梯方面からやって来た岩なだれの大部分が谷を軽々と乗り越え、さらに北の曾原・狐鷹森地区まで広がったためであることを示します。そこに小磐梯山麓末端の湧水などが流れ込み、湖沼群となったようです。岩なだれの勢いがとてつもなくすごかったことがうかがえます。その他にもいろいろなことが読み取れる立体地形図を、まずはじっくりご覧ください。



▲噴火前後の立体地形図



▲噴火前の小磐梯山北側の地形